小学校第６学年　道徳科学習指導案

学習指導者　坂出市立川津小学校　西川　早紀

１　**主題名**　自分の心に誠実に（正直、誠実）　教材名　「のりづけされた詩」

２　重点とする授業改善の視点

本授業では、児童一人ひとりが自分の考えを抱くために学習形態を選択することと、自己の考えの変容に気付くために、共感できる友達の考えを一つ選択する場を設定したい。また、道徳での学びを実践行動につなぐために、自己の経験と学びをつなぎ、自分で本時のまとめを考える活動を設定することで、これからの自分の生き方を想像し、表出する充実した振り返り活動を実践したい。

３　本時の学習指導

（１）ねらい

自分の心が揺れ動いた時、偽りなく誠実に、明るい心で生活しようとする態度を育てる。

（２）学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
１　本時の課題に迫るために、自分の経験を想起し、全体で共有する。 友達にかっこいいところをみせたくて、話を大きくしてしまったことがあるな。 誰にも言えず、モヤモヤしたこともあったな。 すっきりしたときは、正直に話せた時だったな。	○だれにでも和枝の様に、悩んだ経験があることや、その後もモヤモヤしたりすっきりしたりするような同様の経験があることを全体で確認する。 ○教師の範読を通して、物語の全体を捉え、「大きくゆれ動く」和枝の心の葛藤に共感する児童の気持ちや反応を全体の場でつなぐ。
心が揺れ動いた時に、どんな生き方をすると気持ちよく過ごせるのだろう？	
２　和枝の「心の中は、大きくゆれ動いていました。」の一文から、葛藤する気持ちを考える。 正直に話すことのいい点は、気持ちがすっきりするし、心が楽になることだと思うよ。 でも、正直に言うことで、友達からなんていわれるか怖いな。モヤモヤした気持ちもずっと続くよ。	○全体で交流する中で、和枝の葛藤を十分に理解できるよう、様々な立場の考えを共有する場を設定する。 ○和枝の葛藤を自分事として考えるために、正直に言うことの利点と欠点という視点で整理する。 ○本時の価値である、「誠実」に迫るために、先生に打ち明けた時の和枝の行動は自分の心のモヤモヤを解消するための「正直」な行動であることを確認する。
３　和枝の「のりづけする」という行動にはどんな意味があったのか考える。 詩をのりづけしたことは、これから一生、自分の心に嘘はつかないという覚悟だと思う。 詩が上手だとほめられてきた、自分自身を大切に思う行動だったと思うよ。 自分自身にも、周りにも「誠実」な行動だな。 詩が上手だといわれてきた自分を、自分自身で認めてあげたんだと思うよ。	○正直で終わらない、和枝の素晴らしさにせまるために、自分だったらのりづけするか、しないかと考え、和枝の行動の意味を考える。 ○どの児童も自分の考えを持つために、誰と考えるか学び方を選択する場を設定する。 ○のりづけしたことの意味について、自分の考えをロイロノートで提出し、全体で共有する。一番良いと思ったものをノートに書き加え、その相手と交流する場を設定することで、和枝の「誠実さ」にせまる。
４　本時の学びを振り返り、自分の生活に繋げる。 ありのままの自分を認めて生活していくと、気持ちがいいな。 正直に生きるだけでなく、自分の心に嘘をつかずに、自分が納得して生きていくことが大切だな。	○これまでの経験を振り返り、これから自分がどのような行動で生活していくか表出する。 評　自分の生活を振り返り、誠実であることの大切さに気付き、考えを深めることができる。